令和元年度　第２回吹田市公共施設等への能勢町産等木材利用推進検討会議

議事要旨

1　日時　令和元年(2019 年) 9 月 12 日(木)　18:00～20:00

2　場所　吹田市役所　高層棟４階　特別会議室

3　議題

(1)ガイドライン工程表について

(2)ガイドライン目次案及び「はじめに」の構成案について

(3)法令改正情報について

(4)木造・木質化ターゲットについて

(5)「大阪府内産材・能勢産材の利用状況・流通・調達」及び
「木造化、木質化における留意事項」について

(6)モデル施設の進捗状況について

4　出席者

＜出席委員＞

五十田博	委員	畑中直樹	委員	花﨑由泰	委員
津本裕二	委員	前田博之	委員		

＜欠席委員＞

無し

＜吹田市公共施設等への能勢町産等木材利用推進検討会議設置要領第６条に基づく出席者＞

【オブザーバー】

環境省近畿地方環境事務所　遊佐秀憲環境対策課長

【関係室課】

曽谷俊弘まなびの支援課長代理

＜事務局＞

平野和男環境政策室長、楠本直樹環境政策室参事、丸谷友孝環境政策室主幹、
柏木郁乃環境政策室主査、八木春樹環境政策室主任、㈱内藤建築事務所　３名、
（一財）大阪府みどり公社　３名

＜傍聴者＞　０名

5　議事内容

－開会－

事務局挨拶

○議題１　ガイドライン工程表について

事務局より、資料１に基づき説明を行った。

(1) モデル施設の設計スケジュールより、令和元年度第３回会議から令和２年度第４回会議までの内容をモデル施設の設計に反映できる。

○議題２　ガイドライン目次案及び「はじめに」の構成案について

事務局より、資料２－１及び資料２－２に基づき説明を行った。

(1) 本ガイドラインの対象者は市担当者であり、どの章から読んでもわかりやすいようにしておく必要がある。維持管理やコストの話に興味を持たれると思う。

(2) 「はじめに」で国の補助や森林環境譲与税についても触れる必要がある。

(3) 「はじめに」で木材の地域内循環による経済性、建物重量の軽量化、建設現場がきれいなど木材を使う意義や良い面を記載する必要がある。

○議題３　法令改正情報について

事務局より、資料３に基づき説明を行った。

(1) まとめると４階建てまでは木材現しで建設できるようになり、５階以上はまだ具体的な仕様が定められていない。これ以上の緩和はないというくらい緩和されてきている。

○議題４　木造・木質化ターゲットについて

事務局より、資料４－１及び資料４－２に基づき説明を行った。

(1) 木材利用では建物の階数も重要になるので、階数も含めた整理をすること。

(2) 住宅部品が活用できる 500 ㎡以下で 2 階以下の建物だと、木造化することでむしろコストを下げることができる。そういった建物を木造化することが有効と思われる。

(3) ターゲットの設定も重要。例えば、学校施設は使用する木材がモジュール化しやすく、築年数の経った学校施設も多いので、長寿命化に合わせて木質化することも有効である。

(4) この事例の工事単価比較表では木材使用量が多いから工事単価が高いように見えてしまう。他の自治体でもコスト比較事例があるので、参考にすること。また、林野庁と国交省がまとめたもので、どの規模の木造化がコスト的に有効かを調査した資料があるので参考にすること。

(5) 新しい技術を使用することで補助金が使えるので、コストは抑えることはできる。

○議題５　「大阪府内産材・能勢産材の利用状況・流通・調達」及び「木造化、木質化における留意事項」について

Ａ委員より、資料５－１に基づき説明が行われた後、事務局より、資料５－２、資料５－３及び資料５－４に基づき説明を行った。

(1) 主伐は少なく、間伐が中心であり、蓄積量が増える一方であるが、採算の問題から中々伐採量が増えない。

(2) 平成 30 年度の府内産材生産量は、同年度の台風被害により生産量が減る見込み。能勢町の大きな被害はなし。

(3) 大阪府内のＪＡＳ認定工場のことや乾燥材など口頭で説明した内容を資料に反映すること。こういった内容が、府内産材を利用する際の留意点になると思う。

(4) 京都府のガイドラインは府木連の視点で作られている。京都府は独自の京都木材規格を定めている。法令上でＪＡＳ適合材が必須となっているものを除き、構造材にＪＡＳ適合材でなく京都木材規格の強度管理材が使用できるようになっている。

(5) 調達の観点からみると、ストックがない中でモデル施設に木材利用をしようとするので、基本設計が重要なポイントになる。そういった視点から見ると、木材利用推進検討会議の中でも、基本設計段階から能勢町産材の検討が必要である。

○議題６　モデル施設の進捗状況について

まなびの支援課より、資料６－１、参考資料１及び参考資料２に基づき説明が行われた後、事務局より、資料６－２、資料６－３及び参考資料３に基づき説明が行われた。

(1) 北千里小学校跡地複合施設では木造化できるのではないかと考える。具体的には床には音の問題などがあるが、屋根（小屋組み、梁）には使えるのではないか。屋根であれば、比較的問題なく使うことができ、普通に使われている。

(2) 適材適所に木材を使うことが重要。

(3) 床材で使用する場合、処理をすることで耐久性をあげることは可能。音のことを考えて全体ではなく部分的に使用することも考えられる。

(4) 国の補助金（木材、省エネ関係等）がいくつかある。活用できるものがあれば活用してほしい。

(5) 基本設計で木材使用量が決まらないと動きにくい。それを決めるキーになるのが設計者である。この会議で議論したが結局あまり使われなかったということは避けるようにして欲しい。

(6) 特に学校改修のようなサイクルが短いものだと、より木材調達に余裕が無い。神戸市では営繕部局の方で、年間の工事量をもとに木材需要量の試算をしようとしている。マクロな需要が分かると、山側も供給しやすくなり、ストックを持つこともできる。そういったマクロ需要の算定も必要である。

(7) 早い段階で木材の使用量を言ってくれれば、いかようにも対応できるが、急に言われると対応が難しい。また、何に使うのかという情報も重要。丸太のまま置いておくと傷むのを防ぐため、荒加工をしているが、無駄のない加工をするためには何に使うの

かという情報が重要である。

(8) モデル施設以外にも、学校改修の様に軽めでモジュール化しやすいもので木材利用をすすめていくことが重要。

(9) 埼玉県大宮市や岡山県真庭市の図書館は木造化、木質化の参考になる。

(10) メンテナンスのこともあるが、外構の柵にも使えるのではないか。

○全体について

(1) 少量でも継続して木材を使用するサイクルが出来ることが重要。また使用する材を統一すれば無駄なく歩留りよく生産でき、ストックしておくことも可能になる。

(2) 能勢産材は１等材が多いとのことだが、今までと違いこれからの社会では１等材を多く使ってこその木材利用が重要になってくるのではないか。

○次回の検討会議開催は、11 月頃を予定。